お立ち寄り店舗

お食事スポット

Ⓐ レストラン ディーノ

三越郷323-1
11:30~22:00(OS)21:00、16:00~17:00(喫茶)
☎0956-82-2582 休 水 P 有

Ⓑ 民宿 海幸

三越郷348-1 11:00~21:00
☎0956-83-2888 休 無休 P 有

Ⓒ 民宿 遊海

三越郷150
☎0956-82-5384 休 有

Ⓓ 展望台ドライブイン

小串郷831-1 11:00~20:00
☎0956-82-3974 休 火 P 有

Ⓔ 焼き立てパン ペルル

小串郷1480-3 7:30~19:00
☎0956-82-3118 休 水 P 有

Ⓕ BUCO café

三越郷 140-39 12:00 ~ 19:00(LO18:00)
☎080-2393-7209 休 月~金（土日祝営業）

宿泊・休憩 施設

Ⓖ 国民宿舎 くじゃく荘

小串郷272 in 15:00 out 10:00
☎0956-82-2661

Ⓗ 民宿 海幸

三越郷348-1 in 16:00 out 10:00
☎0956-83-2888

Ⓘ 民宿 磯の家

小串郷2386-1 in 16:00 out 10:00
☎0956-82-5347

Ⓙ 旅館 かわはら

百津郷447 in 15:00 out 10:00
☎0956-82-2030

Ⓚ 川棚大崎温泉 しおさいの湯

小串郷237 9:30~22:00
☎0956-82-6868 休 第2水曜日

川棚には美味しいお店、
ゆっくり癒される宿が
随所にございます。
旅の合間に、是非
お立ち寄りください。

タクシー

株式会社マユミタクシー
川棚町栄町82 ☎0956-82-3151

こうげんタクシー
川棚町白石郷7-10 ☎0956-82-5151

バス

西肥バス・川棚バスセンター
川棚町栄町1（JR川棚駅前） ☎0956-82-2119

交通アクセス

長崎空港から	エアポート・バスで約40分（川棚下車）
福岡から	車で約1時間30分（東そのぎICより、佐世保方面へ約20分）
東京から	飛行機で約2時間（長崎空港まで）
大阪から	飛行機で約1時間20分（長崎空港まで）
波佐見・有田から	車で波佐見・有田IC 川棚駅方面へ約30分
JR長崎駅から	JR大村線快速 1時間20分（JR川棚駅下車）

お問い合わせ

川棚町役場 産業振興課 商工観光係
〒859-3692 長崎県東彼杵郡川棚町中組郷1518-1
☎0956-76-8335 / FAX:0956-26-6125
http://www.kawatana.jp/kankou/
かわたな観光ガイド 検索

作成日 /2021年3月

【見学される方へのお願い】
遺構がもつ歴史を後世に
受け継ぐため見学の際は
マナーを守ってください

川棚の歴史遺産
戦時遺構(い こう)めぐり

ガイドマップを見ながら巡る遺構見学ブック

長崎県 川棚町

川棚の歴史遺産 戦時遺構めぐり 見学ガイドマップ

戦時遺構が残るまち、川棚町をゆっくり散策。
その目で、その体で感じてみてください。
きっとあなたに何かを語りかけてくれるはずです。

川棚町の戦時遺構群をガイドします。
- 催行人数：1人～100人
- ガイド料（資料代）：1人200円
- 申込先：（一社）川棚町観光協会
  TEL 09565-83-3210

❶ 川棚臨時魚雷艇訓練所跡

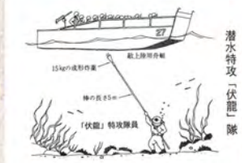
川棚町小串郷に海軍水雷学校（横須賀）の分校として開設した「川棚臨時魚雷艇訓練所」では、特攻兵器「震洋（しんよう）」と「伏龍（ふくりゅう）」の訓練が行われていた。

訓練が行われていた特攻兵器

特攻艇「震 洋（しんよう）」

艇首に250kgの爆装をした高速ボート（速力25～30ノット）で敵の揚陸部隊が上陸点に進入する前後に、夜間に乗じ集団で奇襲し、体当たり攻撃により船舶を撃沈するものであった。

人間機雷「伏 龍（ふくりゅう）」



「伏 龍」は、潜水具を着用し棒付き機雷を手にした兵士により本土決戦における上陸用舟艇の水際撃滅を狙った攻撃。

❷ 資料館

併設されている資料館には当時の訓練の様子がわかる貴重な資料・写真が閲覧できます。※通常は閉館しているため 事前のご連絡が必要です。

❸ 特攻殉国の碑

昭和42年、訓練を受けた戦死者の慰霊碑が建立された。
碑には戦死者3,511名の名が刻まれており、碑の上部には激戦地であったフィリピンコレヒドール島と沖縄の石が添えられている。いる

川棚町で製造された魚雷一覧

作成：齋藤義朗／出典：領収発射した魚雷の種類についてば思い出　佐世保海軍工廠水雷工場』（佐世保二水会、昭和 54年）、『航跡―雷撃人生歴史』（私家版、平成13年）による。魚雷性能諸元については『海軍水雷史』（昭和54年）等、本表魚雷図については、森恒英『軍艦メカニズム図鑑―日本の駆逐艦』（平成7年）を参考とした。

	量産開始時期	名称（数字は炸薬量）	直径 ×全長 (cm)	重量 (kg)	雷速 ×射程 (ノット×km)	動力素 (圧力)	主機関	備考
第二次大戦中	昭和18年～（1943）	九一式改三（235kg）	45×547	852	42×1.5	空気・石油・清水	星形 8気筒	航空機用（川棚工廠）
	昭和18年～（1943）	九五式二型（550kg）	53×715	1,665	45×7.5 48×5	酸素・石油・海水（215kg/㎠）	2気筒複動式 横型	潜水艦用（川棚工廠）

❺ 半耐爆型建造物

魚雷の主な部品を製造・格納していたといわれる建物。奥行は約100m、（現在は石垣で塞がれている）当時は縦に3本つながっており、現在は歩いて行くと2本目までは確認することができる。

❻ トンネル工場

空襲を逃れるために川棚海軍工廠が疎開してつくられた工場

❼ 鉱滓（こうさい）レンガの建物（変電所跡）

溶鉱炉の燃えカスを固めて作った「鉱滓レンガ」で建てられた。現在は個人所有となっており、中を見ることはできなくなっている。

❽ 赤レンガの倉庫

唯一残る、赤レンガの建物。屋根は全くなく（鉄の盗難などで屋根は外されていたという説）2棟あったがひとつは個人所有で、もうひとつは令和2年に解体された。

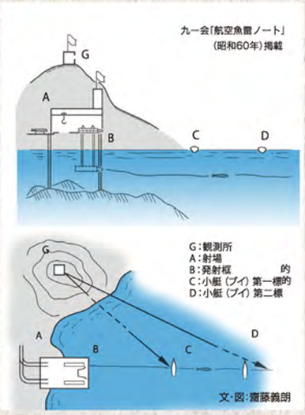
❹ 川棚魚雷発射試験場跡

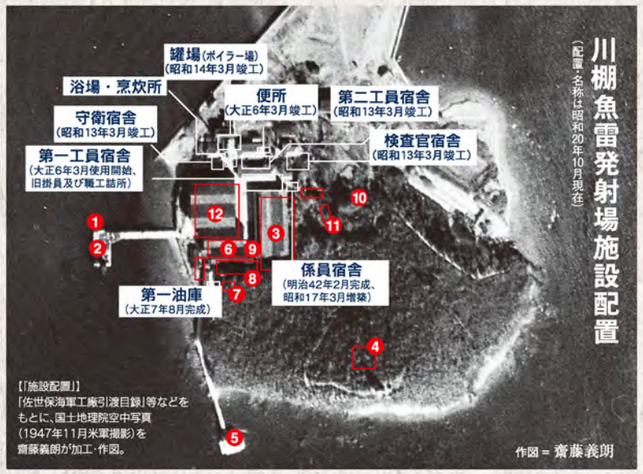
川棚の魚雷発射場は、佐世保や川棚の海軍工廠で新規製造あるいは大修理した魚雷を納品する前に性能試験の発射を行う場所だった。

魚雷発射試験の要領

各種調整後、運搬台車によって射場（A）まで移動された魚雷は、検査官・担当部員の詰める観測所（G）から射場への電話連絡に従い、発射框 から発射された。
昭和20年頃には「装塡よろしい」「発射框降せ」「発射」など各段階の指示ボタンを押すことで伝達されていた。

観測所（G）からは2基の双眼鏡で、1000mおきに設置されたブイ（C、D）の下を魚雷が通過する際の旗切り確認による雷速測定、雷跡追跡による偏射量測定、航走状態確認などを行った。





❶❷ 射場及び射場上屋（大正7年8月竣工）

❸ 第二魚雷調整場跡（昭和17年2月竣工）

❹ 観測所（大正6年8月完成、大正14年3月改修）

❺ 探信儀領収試験場（昭和17年竣工）

❻ 空気圧縮喞筒（ポンプ）所（昭和14年1月使用開始、旧機械場及び水雷調整場、大正6年竣工）

❼ 第二油庫（昭和14年1月竣工）

❽ 冷却水槽跡（大正6年8月 竣工）

❾ 冷却水槽（大正6年8月竣工 旧機械場水溜）

❿ 魚雷の一時保管ほか組立て等も行ったとされるトンネル（内径約4.5m）

⓫ 貯水槽（昭和17年1月）

⓬ 第一魚雷調整場跡（昭和13年3月）

【監修】齋藤義朗

1918 年（大正 7 年）
川棚魚雷発射試験場

佐世保海軍工廠で製造された魚雷の性能試験が行われた。
実際に大村湾内に発射され、速度、航跡、燃費が確認された。不備が見つかれば、敷地内の調整場へ運び、調整、改修が行われていた。

1944 年（昭和 19 年）
川棚臨時魚雷艇訓練所

横須賀の海軍水雷学校の分校として開設された。
佐世保に近いこと、波静かな大村湾が船艇の訓練に最適だったことが理由。のちに戦況の悪化から「特攻」が発案され、特攻艇「震洋」乗組員の養成所へと変わる。

1943 年（昭和 18 年）
川棚海軍工廠

佐世保海軍工廠の分工場として「川棚分工場」が設置。のちに独立して「川棚海軍工廠」が開庁した。主に航空魚雷を製造。従事していたのは、動員学徒がほとんどだった。

1945 年（昭和 20 年）
疎開トンネル工場

日本本土への空襲が激化し、川棚海軍工廠の分散疎開が行われた。工場として使用されたトンネルは、17 本が目視確認されている。また、全面がコンクリート造りで、最奥部で相互に連結されている。